

# 令和元年度 地方創生交付金関連事業評価・検証調書

<b>I. 交付金対象事業</b>	種別	<input type="radio"/> 加速化交付金	<input checked="" type="radio"/> 推進交付金	<input checked="" type="radio"/> 広域	<input type="radio"/> 単独
-------------------	----	------------------------------	--	-------------------------------------	--------------------------

① 国への申請事業名	<b>もうかる農林水産業の実現に向けた「とくしまブランド」戦略</b>			
(広域連携自治体)	徳島県、小松島市、阿波市、那賀町、松茂町、北島町、板野町			
② 取組内容・目指す姿	本県の農林水産業を力強く成長させ、将来にわたり発展させ、将来を担う若い生産者が意欲を持って従事することができる産業へ発展させる。	担当課	農林水産課	
		事業期間	平成28年度～令和2年度	

## II. 事業内容

③ 本市における実施事業名	④ 事業概要
6次産業化支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元産品の開発補助および産直市などへの開発品の仕入れに繋げる。</li> </ul>
農林水産ブランドソフト事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本市特産の「はも」や「しいたけ」、「ちりめん」、「竹ちくわ」、「フィッシュカツ」などの知名度向上を図る。</li> </ul>

### ⑤ 事業計画(スケジュール)及び実施結果(予算・決算額・補助金)

年度	事業計画	実施結果	予算・実績・補助金	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6次産業化に向けた商品開発等支援</li> <li>・ 「こまつしまブランド戦略推進協議会」によるこまつしまブランド産品の販路拡大、海外展開、輸出支援</li> <li>・ 6次産業化ネットワークの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こまつしまブランド戦略推進協議会が県内外で物産品の販売等を行いPR</li> <li>・ 6次産業化社会実験ラボ「こまつしまリビングラボ」による6次産業化ネットワークの推進</li> <li>・ シラス加工を中心とした6次産業化実現の検討会を開催</li> </ul>	当初予算額	8,700,000 円
			実績額	8,132,193 円
			補助金額	4,066,096 円
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6次産業化に向けた商品開発等支援</li> <li>・ 「こまつしまブランド戦略推進協議会」によるこまつしまブランド産品の販路拡大、海外展開、輸出支援</li> <li>・ 6次産業化ネットワークの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6次産業化に向けた商品開発等支援</li> <li>・ こまつしまブランド戦略推進協議会による県外で物産品の販売PR、「ハモの日キャンペーン」の開催、客船寄港時における体験農園等のコンテンツづくりの支援</li> <li>・ こまつしまみなど海鮮朝市プレミアム(毎月第4土曜日)の開催支援</li> </ul>	当初予算額	10,700,000 円
			実績額	2,404,783 円
			補助金額	1,202,391 円

⑥ 重要業績評価指標(KPI)	単位	R1			<広域連携自治体全体でのKPI> ・ とくしまブランド推進機構が関与した5年間の総販売額 (R1目標値) 25億円 ・ 農林水産物等輸出入金額の5年間の総増加額 (R1目標値) 10.1億円  ※県との広域事業であるため、本市のみの実績数については記載せず。
		基準値	目標値	実績値	
1 6次産業化商品件数	件	1	4	3	
2 6次産業化取り組み件数(累計)	件	6	20	29	
3					

### ⑦ 官民協働・自立性

農協および漁協の他、民間事業者と連携することにより本事業の推進を図っている。

### Ⅲ. 評価・事業効果および今後の方針

#### ⑧ 有識者会議の評価・検証結果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・着眼点や素材はよいが、販売面でのより一層の努力が必要であると思われる。</li> <li>・知名度向上には時間がかかると思うが、情報発信が鍵となる。</li> <li>・コロナ禍ということもあり、売上・利益への寄与という点では正確な因果関係の把握は難しいが、ハモのブランド化、海鮮朝市の実施等一定の効果があったと思われる。</li> <li>・6次産業化の取組件数増加のKPIが本来の目的に合致しているか、次の計画に期待したい。</li> <li>・地域資源を活かしたブランディング戦略は有効であると思われる。</li> </ul>	外部組織による効果検証	
	A	<p>A. 地方版総合戦略のKPI達成に有効であった</p> <p>B. 地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない</p>

#### ⑨ 交付金事業の地方創生への効果

有効性	②目指す姿・⑥KPIの達成に向けて効果があったか	A	6次産業化取組件数という面においては累計数値で大幅に目標値を達成することができ、農林水産業を力強く成長させるという意味において、非常に効果的であったと考えられる。
事業効果	本事業の地方創生への効果	B	「ハモの日キャンペーン」の実施や、継続した海鮮朝市プレミアムの開催などを通じて、相当程度の事業効果があったと認められる。
今後の方針	事業拡大・継続・改善・事業廃止の方向性	B	市のブランド戦略推進協議会については発展的な解散という形になったが、6次産業化の次なるステップに向けて競争力の強化を図っていく。

#### ⑨ 有効性の評価について

A	非常に大きな効果があった（指標数値が倍増など）
B	概ね目標を達成でき効果があった
C	一部目標を達成できず十分な効果が得られなかった
D	多くの目標を達成できず効果が低かった
E	未実施の取組みもあり効果がなかった

#### 事業効果の評価について

A	非常に効果的であった（全てのKPIが目標を達成するなど、大いに成果が得られた）
B	相当程度効果があった（一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られた）
C	効果があった（KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始以前よりも取組が前進・改善した）
D	効果がなかった（KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難い）

#### 今後の方針について

A	事業の継続（計画通りに事業を継続する）
B	事業の発展（事業が効果的であったことから取組の追加等さらに発展させる）
C	事業の改善（事業の効果が不十分であったことから見直し（改善）を行う、または行った）
D	事業の中止（継続的な事業実施を予定していたが中止する、またはした）
E	事業の終了（当初の予定通り事業を終了する、またはした）

# 令和元年度 地方創生交付金関連事業評価・検証調書

<b>I. 交付金対象事業</b>	種別	<input type="radio"/> 加速化交付金	<input checked="" type="radio"/> 推進交付金	<input checked="" type="radio"/> 広域	<input type="radio"/> 単独
-------------------	----	------------------------------	--	-------------------------------------	--------------------------

① 国への申請事業名	<b>四国のゲートウェイを起点とした 「おどる宝島★とくしま観光・文化プログラム」発信戦略</b>				
(広域連携自治体)	徳島県、小松島市、鳴門市、徳島市、美馬市、三好市、海陽町、つるぎ町、東みよし町				
② 取組内容・目指す姿	徳島の強みを生かして交流人口の増加を図り、地域経済の活性化と雇用機会の拡大につなげる。	担当課	商工観光課		
		事業期間	平成28年度～令和2年度		

## II. 事業内容

③ 本市における実施事業名	④ 事業概要				
客船入港歓迎事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>徳島小松島港のうち本港地区および金磯地区、赤石地区に入港する国内外の大型客船の乗船客を対象に、本市で滞在してもらえる観光メニューの開発ならびに情報発信を行う。</li> </ul>				
観光・イベント振興事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>阿波遍路道を歩き四国霊場をめぐる動機付けとともに、観光スポット以外の本市特有の歴史や文化、食、自然などの魅力を発信するツールづくりを行う。</li> </ul>				

### ⑤ 事業計画(スケジュール)及び実施結果(予算・決算額・補助金)

年度	事業計画	実施結果	予算・実績・補助金	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ客船寄港拡大にむけた誘致</li> <li>PRや歓迎イベントの開催</li> <li>小松島体験型観光推進連絡協議会の立ち上げと着地型旅行商品の造成支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ船入港時に歓迎式典および特産品販売会を開催</li> <li>小松島観光物産検討会を設置し、観光資源創出のワークショップを開催</li> <li>はものブランディングWEBサイト制作や各種イベントでの普及促進</li> </ul>	当初予算額	18,000,000 円
			実績額	18,066,051 円
			補助金額	9,000,000 円
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客倍増等に向けた誘客促進事業</li> <li>小松島観光物産検討会の運営と着地型旅行商品等の造成支援及びPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ客船寄港拡大に向けた誘致・PRや歓迎イベントの開催</li> <li>各種観光イベント開催</li> <li>新商品開発の検討、及び各種講座の開催</li> <li>小松島市観光物産検討会の開催、運営</li> </ul>	当初予算額	20,000,000 円
			実績額	17,164,353 円
			補助金額	8,582,176 円

⑥ 重要業績評価指標(KPI)		単位	R 1			<広域連携自治体全体でのKPI> ・5年間の延べ宿泊者の増加人数 (基準値) 260万人 (R1目標値) 385万人 ・5年間の外国人延べ宿泊者の増加人数 (基準値) 5万人 (R1目標値) 17.7万人  ※県との広域事業であるため、本市のみの実績数については記載せず。
			基準値	目標値	実績値	
1	年間観光客入込数	人	75万2千	80万5千	88万4千	
2						
3						

### ⑦ 官民協働・自立性

地域振興を担う団体、企業、行政関係者等で組織された小松島観光物産検討会を設置し、観光資源の発掘や販売、担い手の育成、情報発信の強化により、持続的で効果的な観光振興を図る。

### Ⅲ. 評価・事業効果および今後の方針

#### ⑧ 有識者会議の評価・検証結果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型客船の寄港は小松島をPRする絶好のチャンスであるので、体験型イベントや特産品以外のみやげ品の開発等、事業を継続して行うとともに、心に残るような魅力的なものを創り出せば良いと感じる。</li> <li>・KPIの目標値はクリアしており交流人口も増加しているが、どれほどのお金が小松島市に落ちたかが重要であると思う。</li> <li>・インバウンドに頼るのではなく、国内観光地としての魅力アップを計っていくことも重要ではないか。</li> <li>・コロナ禍において、今後の大型クルーズ船の寄港等については不透明な部分があるものの、状況を考慮しながらも魅力ある小松島を継続してアピールするべきであると感じる。</li> </ul>	外部組織による効果検証	
	A	<p>A. 地方版総合戦略のKPI達成に有効であった</p> <p>B. 地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない</p>

#### ⑨ 交付金事業の地方創生への効果

有効性	②目指す姿・⑥KPIの達成に向けて効果があったか	B	成果としては、年間観光客入込数において目標値を上回ることができている。大型客船の乗船客に本市で滞在してもらえらるためのメニュー開発や情報発信にむけて、より多くの努力が必要。
事業効果	本事業の地方創生への効果	B	港まつりに合わせて実施された「ニコニコ町会議」など地域活性化イベントが開催されたり、交流人口増加の取り組みにおいては一定の効果が見られる。
今後の方針	事業拡大・継続・改善・事業廃止の方向性	A	観光物産検討会の開催・運営や体験型観光商品の開発など、新たな観光資源の発掘を推進していく。

#### ⑨ 有効性の評価について

A	非常に大きな効果があった（指標数値が倍増など）
B	概ね目標を達成でき効果があった
C	一部目標を達成できず十分な効果が得られなかった
D	多くの目標を達成できず効果が低かった
E	未実施の取り組みもあり効果がなかった

#### 事業効果の評価について

A	非常に効果的であった（全てのKPIが目標を達成するなど、大いに成果が得られた）
B	相当程度効果があった（一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られた）
C	効果があった（KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始以前よりも取組が前進・改善した）
D	効果がなかった（KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難い）

#### 今後の方針について

A	事業の継続（計画通りに事業を継続する）
B	事業の発展（事業が効果的であったことから取組の追加等さらに発展させる）
C	事業の改善（事業の効果が不十分であったことから見直し（改善）を行う、または行った）
D	事業の中止（継続的な事業実施を予定していたが中止する、またはした）
E	事業の終了（当初の予定通り事業を終了する、またはした）

# 令和元年度 地方創生交付金関連事業評価・検証調書

<b>I. 交付金対象事業</b>	種別	<input type="radio"/> 加速化交付金	<input type="radio"/> 広域
		<input checked="" type="radio"/> 推進交付金	<input checked="" type="radio"/> 単独

① 国への申請事業名	「こまっしまに住みたい人」応援事業		
② 取組内容・目指す姿	地域の取り組みを集約する移住定住ワンストップ窓口を設置し、移住希望者のニーズに応えられる体制を構築する。	担当課	秘書政策課
		事業期間	平成29年度～令和元年度

## II. 事業内容

③ 本市における実施事業名	④ 事業概要		
移住定住促進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>移住定住ワンストップ窓口の設置について検討、その他設置準備を行う。</li> <li>空き家の所有者の特定後、利活用の希望調査を行い、空き家の利活用を図る。</li> <li>移住者が定住できるよう地域の体制を整える。</li> <li>中高大学生など、若者が小松島市に誇りを持ち、愛着を感じることで、地域に定住する、一度転出しても戻りたいと思えるよう支援を行う。</li> </ul>		

### ⑤ 事業計画(スケジュール)及び実施結果(予算・決算額・補助金)

年度	事業計画	実施結果	予算・実績・補助金	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>移住定住ワンストップ窓口による移住に関する相談や情報発信</li> <li>空き家バンクの設置及び情報提供</li> <li>移住者受け入れ体制の整備</li> <li>若者の地元定住意識への働きかけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワンストップ窓口の開設</li> <li>空き家バンクの創設</li> <li>移住定住促進PR動画の作成</li> <li>都市部での移住フェアへの参加</li> <li>地域づくりワークショップの開催</li> <li>リーサスを活用した中学生対象研修</li> <li>人口減少について考える小学生対象の授業</li> </ul>	当初予算額	10,600,000 円
			実績額	8,915,333 円
			補助金額	4,457,666 円
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>移住定住ワンストップ窓口による移住に関する相談や情報発信</li> <li>空き家バンクの設置及び情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワンストップ窓口による移住相談</li> <li>空き家バンク登録物件のマッチング</li> <li>勝浦川流域移住体験ツアーの開催企画</li> <li>移住相談会IN大阪への参加</li> <li>アンバサダー制度についての検討</li> </ul>	当初予算額	5,600,000 円
			実績額	3,461,968 円
			補助金額	1,730,984 円

⑥ 重要業績評価指標(KPI)		単位	R1		
			基準値	目標値	実績値
1	移住者数	人	15	50	304
2	移住定住ワンストップ窓口を利用して、移住した世帯数	世帯	0	5	4
3	空き家の利活用件数	件	0	2	1

### ⑦ 官民協働・自立性

農業漁業体験、お試し移住など官民協働で行い、またワンストップ窓口は将来的には法人化することにより、民間と連携し地域活性化につながる事業を展開する。  
 また、勝浦川流域での移住体験ツアーなど、本市だけの取り組みではなく、周辺の市町とも連携を図りながら広域的な観点から取り組んでいる。

⑧ 有識者会議の評価・検証結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後コロナ禍が長期化すると、より重要な取り組みとなると思われる。</li> <li>・勝浦川流域における移住体験ツアー開催企画は、評価できると思う。</li> <li>・コロナ禍で、在宅勤務など働き方に変化が起こっている今がチャンス。</li> <li>・移住者数の実績値が大きく目標値を上回っており、単独事業として大きな成果を収めているが、その理由を詳しく分析することで、さらなる伸びが期待できるのではないか。</li> <li>・他の移住者からの意見を聞き、同じ形ばかりでなく、新たに形を生み出すことも必要であると感じる。</li> <li>・移住者への特典が弱いと感じる。</li> </ul>	外部組織による効果検証
	<p>A</p> <p>A. 地方版総合戦略のKPI達成に有効であった</p> <p>B. 地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない</p>

⑨ 交付金事業の地方創生への効果			
有効性	②目指す姿・⑥KPIの達成に向けて効果があったか	B	ワンストップ窓口や空き家バンクを継続的に活用することで、移住希望者のニーズに広く答えられる環境づくりができた。
事業効果	本事業の地方創生への効果	B	関西での移住フェアに参加したり、勝浦川流域における移住体験ツアーの企画を行ったり、移住希望者への情報発信を引き続き行うことができた。
今後の方針	事業拡大・継続・改善・事業廃止の方向性	C	事業期間が令和元年度までとなっており、交付金事業としては終了となるが、引き続き市単独事業として継続していく。

⑨有効性の評価について

A	非常に大きな効果があった（指標数値が倍増など）
B	概ね目標を達成でき効果があった
C	一部目標を達成できず十分な効果が得られなかった
D	多くの目標を達成できず効果が低かった
E	未実施の取り組みもあり効果がなかった

事業効果の評価について

A	非常に効果的であった（全てのKPIが目標を達成するなど、大いに成果が得られた）
B	相当程度効果があった（一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られた）
C	効果があった（KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始以前よりも取組が前進・改善した）
D	効果がなかった（KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難い）

今後の方針について

A	事業の継続（計画通りに事業を継続する）
B	事業の発展（事業が効果的であったことから取組の追加等さらに発展させる）
C	事業の改善（事業の効果が不十分であったことから見直し（改善）を行う、または行った）
D	事業の中止（継続的な事業実施を予定していたが中止する、またはした）
E	事業の終了（当初の予定通り事業を終了する、またはした）

# 令和元年度 地方創生交付金関連事業評価・検証調書

<b>I. 交付金対象事業</b>	種別	<input type="radio"/> 加速化交付金	<input checked="" type="radio"/> 推進交付金	<input checked="" type="radio"/> 広域	<input type="radio"/> 単独
-------------------	----	------------------------------	--	-------------------------------------	--------------------------

① 国への申請事業名	<b>徳島東部地域におけるDMO推進</b>				
(広域連携自治体)	徳島市、鳴門市、小松島市、吉野川市、阿波市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、石井町、神山町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町、				
② 取組内容・目指す姿	DMOを設立し地域の「稼ぐ力」を引き出す観光地域づくりを戦略的に推進することにより、観光振興による地域活性化を目指す。	担当課	商工観光課		
		事業期間	平成30年度～令和2年度		

## II. 事業内容

③ 本市における実施事業名	④ 事業概要
徳島東部地域観光振興事業	・イーストとくしま観光推進機構への負担金を負担し、圏域内の観光資源を活用し観光地域づくりを進める

### ⑤ 事業計画(スケジュール)及び実施結果(予算・決算額・補助金)

年度	事業計画	実施結果	予算・実績・補助金	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本版DMOの設置</li> <li>・DMOを司令塔とした戦略的なマーケティング(観光資源のデータ分析等)</li> <li>・情報発信の強化(WEBSITEの立ち上げ、SNSによる情報発信)</li> <li>・入込客増加に向けた活動(旅行博、商談会への参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イーストとくしま観光推進機構の設置</li> <li>・東部地域のモニターツアーの開催</li> <li>・観光コーディネーター養成講座の開催</li> </ul>	当初予算額	2,000,000 円
			実績額	2,000,000 円
			補助金額	1,000,000 円
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングリサーチ事業</li> <li>・情報発信&amp;プロモーション事業</li> <li>・徳島東部圏域への誘客・送客等促進事業</li> <li>・広域連携による観光地域づくりの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WEBアンケートシステムの構築、及び対面アンケート調査の実施</li> <li>・WEBプロモーション、インバウンド向け観光情報発信強化、募集型企画旅行広報支援、徳島県東部圏域PR冊子制作、観光スポット情報掲載</li> <li>・観光人材養成講座の開催</li> </ul>	当初予算額	4,680,000 円
			実績額	4,655,024 円
			補助金額	887,512 円

⑥ 重要業績評価指標(KPI)	単位	R1			<広域連携自治体全体でのKPI> ・5年間の延べ宿泊者数 (基準値) 178万人 (R1目標値) 184万人 ・5年間の徳島県東部圏域の観光入込客数 (基準値) 264万人 (R1目標値) 274万人  ※広域事業であるため、本市のみの実績数については記載せず。	
		基準値	目標値	実績値		
1	年間観光客入込数	人	75万2千	80万5千		88万4千
2						
3						

⑦ 官民協働・自立性	徳島東部地域DMOを設立し、市町村、民間企業等が連携することにより、徳島東部地域が一体となった観光施策に取り組む。
------------	---

### Ⅲ. 評価・事業効果および今後の方針

#### ⑧ 有識者会議の評価・検証結果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・東部地域の自治体の中で幹事役を決めるなどの組織的対応が必要。</li> <li>・特にWebページ更新が進んでいないなど、成果不足が感じられる。</li> <li>・本県最大の観光資源である阿波踊りや四国遍路を核として、更なる知名度アップを計るとともに、地域ならではの食と文化の情報発信をもっと推進してはどうか。</li> <li>・情報発信が強化されている印象を受けるが、観光資源の更なる掘り起しを期待したい。</li> <li>・インバウンドに頼るのではなく、国内観光地としての魅力アップを計っていくことが重要ではないか考える。</li> <li>・若い人にアイデアを募ってみてはどうか。</li> </ul>	外部組織による効果検証	
	A	<p>A. 地方版総合戦略のKPI達成に有効であった</p> <p>B. 地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない</p>

#### ⑨ 交付金事業の地方創生への効果

有効性	②目指す姿・⑥KPIの達成に向けて効果があったか	B	観光客入込数は目標値を達成することができ、インバウンド向け情報発信等においても強化が図られている。
事業効果	本事業の地方創生への効果	B	DMOの情報発信力により圏域内の観光資源を効果的に発信することができている。マーケティングリサーチ事業において、更なる効果が期待できるものと考えられる。
今後の方針	事業拡大・継続・改善・事業廃止の方向性	A	観光コーディネーター養成講座や観光ガイド養成講座の継続した取り組みに加え、新たな視点や発想による広域観光地域づくりの推進が望まれる。

#### ⑨ 有効性の評価について

A	非常に大きな効果があった（指標数値が倍増など）
B	概ね目標を達成でき効果があった
C	一部目標を達成できず十分な効果が得られなかった
D	多くの目標を達成できず効果が低かった
E	未実施の取り組みもあり効果がなかった

#### 事業効果の評価について

A	非常に効果的であった（全てのKPIが目標を達成するなど、大いに成果が得られた）
B	相当程度効果があった（一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られた）
C	効果があった（KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始以前よりも取組が前進・改善した）
D	効果がなかった（KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難い）

#### 今後の方針について

A	事業の継続（計画通りに事業を継続する）
B	事業の発展（事業が効果的であったことから取組の追加等さらに発展させる）
C	事業の改善（事業の効果が不十分であったことから見直し（改善）を行う、または行った）
D	事業の中止（継続的な事業実施を予定していたが中止する、またはした）
E	事業の終了（当初の予定通り事業を終了する、またはした）



# 令和元年度 地方創生交付金関連事業評価・検証調書

<b>I. 交付金対象事業</b>	種別	<input type="radio"/> 加速化交付金	<input type="radio"/> 広域
		<input checked="" type="radio"/> 推進交付金	<input checked="" type="radio"/> 単独

① 国への申請事業名	<b>地域における人材確保力の強化推進事業</b>		
② 取組内容・目指す姿	新たな職場の創出や地元企業への就職を推進することにより労働人口の増加を目指す	担当課	商工観光課
		事業期間	平成30年度～令和2年度

## II. 事業内容

③ 本市における実施事業名	④ 事業概要
雇用創出事業	勤務先情報等の共有や合同就職説明会の開催し本市への人材の還流、流入を促進する。 新規雇用創出奨励金を補助する。
中小企業振興事業	中小企業の抱える経営・雇用等諸問題への支援として、地域企業支援セミナーを開催するなど、中小企業の振興を行う。

### ⑤ 事業計画(スケジュール)及び実施結果(予算・決算額・補助金)

年度	事業計画	実施結果	予算・実績・補助金	
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者と求職者の雇用に関する課題解決を考えるワークショップ等の開催</li> <li>・就職ガイドブックの作成</li> <li>・中途採用マッチングイベントの開催</li> <li>・新規企業誘致・Uターン人材の確保に向けた調査等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所向け採用力強化セミナーの開催</li> <li>・保護者向け就職セミナーの開催</li> <li>・26事業所による合同就職説明会の開催</li> <li>・6事業所を巡る事業所見学バスツアーの開催</li> <li>・地元高校でのキャリア支援授業</li> </ul>	当初予算額	11,100,000 円
			実績額	10,445,219 円
			補助金額	5,222,609 円
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元事業所の認知度向上事業</li> <li>・Uターン人材の確保推進事業</li> <li>・地元事業所、誘致企業と地元学生との交流拠点及び移住定住相談窓口となる施設の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者等求職者が参加するワークショップ等の開催</li> <li>・就職ガイドブックの作成</li> <li>・中途採用マッチングイベントの開催</li> <li>・企業誘致サポートや斡旋、Uターン人材の確保に向けたツール作成(ウエヴ等)</li> <li>・既存施設の改修によるコワーキングスペースの開設</li> </ul>	当初予算額	34,200,000 円
			実績額	29,854,853 円
			補助金額	14,927,426 円

⑥ 重要業績評価指標(KPI)		単位	R1		
			基準値	目標値	実績値
1	就職面接会への参加者数	人	137	144	216
2	就職面接会による就職者数	人	25	28	39
3	新分野等誘致企業数	社	1	3	2

### ⑦ 官民協働・自立性

市・商工会議所・金融機関・農協・大学・事業者等、地域経済に関わる代表者が広く集まる協議の場を設置し、地域全体の取り組みとして雇用対策に取り組んでいく。地域全体で、市内事業所と新卒者及び中途採用者との接点を創出していく。

### Ⅲ. 評価・事業効果および今後の方針

#### ⑧ 有識者会議の評価・検証結果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変有効な事業であると考えている。企業の側でも価値向上や魅力アップを計っていく必要があると感じる。</li> <li>・様々な年齢が活用できるコワーキングスペースは、異年齢交流にもなり、とてもよいと思う。</li> <li>・若い世代にできるだけ多くの事業所体験の機会を増やし、地元企業の良さを知ってもらうことが重要ではないか。</li> <li>・コロナ禍において、地方で働きたいと希望する都会の若者が増えているとの報道もある中で、都会へ向けての個人や企業の誘致作戦も課題となってくる。</li> <li>・高校生と企業のマッチングをより強化させるべきだと思う。</li> </ul>	外部組織による効果検証	
	A	<p>A. 地方版総合戦略のKPI達成に有効であった</p> <p>B. 地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない</p>

#### ⑨ 交付金事業の地方創生への効果

有効性	②目指す姿・⑥KPIの達成に向けて効果があったか	A	KPI指数は全てにおいて目標値を達成している。また、移住定住相談窓口となる施設整備やコワーキングスペースの開設などにも取り組むことができた。
事業効果	本事業の地方創生への効果	A	企業誘致により確実に実績を挙げるとともに、各種セミナーの実施による雇用創出・人材確保とそれらに繋がる環境整備を行うことができている。包括連携協定の締結も効果的であると考えられる。
今後の方針	事業拡大・継続・改善・事業廃止の方向性	A	今後も引き続き、地元企業への就職の推進により労働人口の増加を目指すとともに、地域全体で取り組みを行っていく。

#### ⑨ 有効性の評価について

A	非常に大きな効果があった（指標数値が倍増など）
B	概ね目標を達成でき効果があった
C	一部目標を達成できず十分な効果が得られなかった
D	多くの目標を達成できず効果が低かった
E	未実施の取り組みもあり効果がなかった

#### 事業効果の評価について

A	非常に効果的であった（全てのKPIが目標を達成するなど、大いに成果が得られた）
B	相当程度効果があった（一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られた）
C	効果があった（KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始以前よりも取組が前進・改善した）
D	効果がなかった（KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難い）

#### 今後の方針について

A	事業の継続（計画通りに事業を継続する）
B	事業の発展（事業が効果的であったことから取組の追加等さらに発展させる）
C	事業の改善（事業の効果が不十分であったことから見直し（改善）を行う、または行った）
D	事業の中止（継続的な事業実施を予定していたが中止する、またはした）
E	事業の終了（当初の予定通り事業を終了する、またはした）